

【『園舎建替えに伴うこども園への移行』に係るPTAの取り組みと、PTA活動について】

平成 28 年 1 月 27 日 愛知県国公立幼稚園こども園PTA連絡協議会 研究報告会
尾張地区代表 半田市立亀崎幼稚園 PTAみどり会

【趣旨と狙い】

- 明治 35 年(1902)創立 114 年目になる亀崎幼稚園は、平成 24 年に旧園舎が築 50 年を過ぎ、老朽化した園舎を建替えるのを機に市側が「こども園化」を検討し、決定していきました。
 - これは今後、こう言ったケースは他園でも増えてくるのではないかとということ。
 - その時、私ども亀崎幼稚園のPTAや保護者はどのように動いたか。
 - またPTAとして、何ができるのか、どのように活動したのか。
 - 建て替えが決まってからの、その経過と結果はどうであったか。
- これらについて、他園でも参考になるのでは、と思ひまして今回この発表内容にしました。

【亀崎幼稚園 こども園化への問題点】

こども園化には、大きく 5 つの問題点がありました。

◆交通安全対策◆

- ◇ 徒歩通園が原則である亀崎幼稚園が、こども園になると車での送り迎えができるようになり、その予想規模は車の数で 40 台～50 台、誰でも車で通えるのか、その基準は不明。それだけでなく、園門の前の道路は車二台がやっとすれ違える狭小道路。またその道路は、小学生が 500 名以上通る通学路にもなっています。車での通園には無理があり、子供たちの安全確保が問題です。

◆保育室と子育て支援室の配置◆

- ◇ 旧園舎は平屋で保育室からまっすぐ園庭へ出られるつくりです。新園舎の保育室は同じ造りでの建替えを平成 12 年から要望しています。
- ◇ また、ビジター用の子育て支援室の位置と、ホームの園児たちの保育室との位置の問題です。ホームの三歳児が、ビジターの子育て支援室に来る親子が見える状況だと、落ち着かなくなるので、離して見えない工夫をする必要があります。

◆保育時間の異なる園児への対応◆

- ◇ 同じ園児でも、短時間保育と、長時間保育の子供たちが、同じ環境で保育を行います。特に 14 時に、短時間の保護者が迎えに来る時の、園児の精神的な影響が懸念されます。
- ◇ また職員の対応も、幼稚園教諭の担任制の存続は可能なのか、長時間保育の保育は誰が行うのかなどが、問題点として挙げられます。

◆仮園舎の場所◆

- ◇ 園庭内で仮園舎の建設や解体を行えば、保育に影響が出るだけでなく園児に危険が及びます。
- ◇ またその影響で、亀崎幼稚園のシンボルともいえる桜並木は、ほとんどすべて切り倒さなければなりません。
- ◇ 園外で仮園舎の場所確保は、周辺に建てられる土地がなく、難しい状況です。

◆PTA活動◆

- ◇ 短時間と長時間の保護者が共存する中で、これまでのようにPTA活動できるのか。
- ◇ 働いていることを理由に、PTA活動の参加拒否につながるのではないかと懸念されます。

◆給食開始による園行事の制約◆

- ◇ 食べ物を伴う活動 カレーパーティー、さくらんぼジャムパーティーなど、収穫した野菜な

どの行事が保健所からの指導でなくなる可能性があり、幼稚園教育で大切にしていた園の伝統行事が制約される恐れがあります。

◆定員オーバーによる抽選◆

- ◇ こども園になれば、亀崎地区以外からの通園者の増加が予想され、定員オーバーになり、抽選に漏れてしまえば、園の隣に住んでいても通えないこととなります。すなわち、地元の子供たちが通えなくなる可能性があり、地域の幼稚園ではなくなってしまいます。
- ◇ また抽選になれば、兄弟姉妹で、違う園に通わなければならない可能性が出てきます。

◆他には◆

- ◇ 同じ小学校区内に保育園があり、地域としては幼稚園と保育園の住み分けができているところに当幼稚園に保育園の要素を加えて、こども園化にするということの目的が不明瞭な点。
 - ◇ さらに、園から徒歩5分ほどの近くの児童センターで、子育て支援を行っているのにもかかわらず、幼稚園内に子育て支援室を設けるということ。
- これら、保護者や地域の方たちが納得のいかない状況もありました。

【園舎建替えに係る 市とPTAの動き】

- 平成23年度から具体的な園舎建て替えの動きがありました。その中で、寝耳に水であったのが亀崎幼稚園のこども園化です。保護者の不安解消のため、園長先生から、こども園についての説明会を開いてくださいました。
- 平成24年度に入ってすぐ4月下旬、市側が亀崎地区3,800世帯に建替えに係るアンケートを実施しました。この時点で保護者と地域に、こども園化の説明は一切ありませんでした。
- 5月7日に園長先生が保護者の不安解消のため、もう一度こども園化についての説明をしてくださいました。内容は、こども園になると今までと何が変わるのか。それを我々PTAは、こども園化の問題点であると解釈しました。
- 5月中旬に、PTAとしては、早速問題点の現状把握のため、まずは幼稚園前の狭小道路と、付近の狭小道路の交通量調査を始めました。
- その結果を踏まえ、5月下旬に、亀崎幼稚園のこども園化についてのアンケートをPTA役員が独自に作成して、園の全保護者に配布しました。
- さらに6月9日には、地元の区長会などの代表者と、地元の小中学校PTAを集め、我々幼稚園PTAが主催した亀崎幼稚園のこども園化についての懇談会を実施しご意見を伺いました。
- 6月26日には、保護者や地域が不安になっている中、市側からは全く説明がないことと、地域や保護者の意見に、耳を傾けない姿勢の市側に対して、業を煮やした我々PTAは、建替えに関する、建替え説明会の実施と、幼稚園存続の要望書を、先に行った交通量調査の結果と、PTA作成のアンケート結果と一緒に提出しました。
- そんな中7月、市側のアンケートの集計結果が出ました。有効回答数は2,324枚です。その集計結果で、市側は亀崎幼稚園をこども園にするという判断になりました。判断理由は主に3つありました。この判断理由が理解できないのですが、
 - 1つ目は、降園時間です。全体で15時降園が41%、16時が29%、この合計が70%なので、幼稚園の降園時間である14時降園よりも長いから、これはこども園だというものです。実はこれ、幼稚園の預かり保育で解消できます。半田市においても、この時すでに、市内の他の幼稚園では預かり保育を実施していました。
 - 2つ目は、給食です。全体で給食希望が65%、20代30代の給食希望率が70% だからこれはこども園だというものです。これも幼稚園で給食にすれば解決します。亀崎幼稚園も昔は給食だったのですから。

○ 3つ目は、3歳児未満の保育施設です。必要が過半数の53%、過半数と言ってもほぼ半数なのですが、そもそも3歳児未満の保育施設が幼稚園に必要でしょうか。別の場所に用意するのが、行政の本来の仕事であると考えます。

この結果で、市側は亀崎幼稚園をこども園にするべき、ニーズがあるからと、ある種強引ともいえる内容で決定したようです。アンケートに回答した人たちは、口をそろえて、なんで？ どうして？ 建て替えのためのアンケートじゃなかったのか。と不満を漏らしました。

- 7月27日市側では、幼保一体化検討会議で亀崎幼稚園のこども園化を検討しているという情報を知りえたので、その会議が一体どんなものなのか、7月27日に役員会と希望者で傍聴へ行きました。

そこで驚いたのが、有識者という肩書の4名が、口をそろえてこども園にするべき、しかも保育所型のこども園にするべき。という意見でした。反対しているのは、幼稚園教育の重要性を理解されている教育委員会の委員長、民間の方ですが、その方お一人だけでした。

有識者は市側が偏った人選をしているのではないかと穿った見方をしたくなるほどの印象でした。

- 8月10日、臨時の教育委員会が開かれました。臨時で開いてまで、何を急いでいるのか、という感じなのですが、そこで亀崎幼稚園を幼稚園型こども園として建替えることが決定されました。幼稚園型になったのは、教育委員長が頑張ってくださったおかげだと聞いています。

決定前には会長・副会長で何度も教育委員長のところへもお願いに足を運びました。

そして、これがいけないと思うのですが、この時点でもまだ市側は、保護者や地元住民には建替えの説明会を開いていませんでした。

- このあと、PTAから議会へ対しての動きや、議員の一般質問の動きもありました。
- 8月31日、ようやく市からPTAの役員会に対して、保護者や地元の説明会についての役員向けの説明会を開いてくれました。
- 9月27日に、市側から保護者へと、10月2日に地元住民へ、ようやく園舎建替えと幼稚園のこども園化についての説明会が行われました。第1回目です。

説明会というよりも、決定事項の事後報告会でした。

こども園ありきの説明会で、建て替わる園舎は平成12年から要望している平屋ではなく、二階建てで、園内に駐車場を設けて、狭小な道路を車で通園できる設計で、一階は子育て支援室と預かり保育室、二階に毎日通園する園児を追いやるという、最悪ともいえる設計図を見せられました。

- 10月9日、先の説明会結果で、我々PTAは、PTAみどり会の臨時総会を開きました。1回目の臨時総会です。市側の説明会の結果について話し合いをし、そこで幼稚園存続を求めての署名活動を行うことが決定されました。
- 11月上旬から一か月間、亀崎学区内で署名活動を行ない、その内容は、前述のこども園化への問題点がある以上は、子供たちの安心安全や、幼稚園教育の存続が危ぶまれる、ゆえに亀崎幼稚園のこども園化は拒否をする。というものです。

署名の地域は、あえて亀崎学区内にこだわりました。関係する地元の人たちの署名がより重いと考えたからです。

- 12月10日PTAは2,363名の署名を集め、市長へ要望書とともに提出しました。この様子は写真付きで中日新聞の記事になりました。
- その5日後の12月15日に、市側は2度目の園舎改築と幼稚園型こども園の説明会を開きました。園舎の設計図は相変わらず2階建てで、安全のため3歳児のみ一階に保育室設定したものが提示されたとはいえ、我々が望む平屋建ての園舎ではありませんでした。

- 年が明けて 1 月 17 日、教育長から、市長へ提出した署名と要望書を受けた、市側の対応についての回答が返ってきました。内容は、
 - 交通安全対策として、原則徒歩通園で、遠方の通園者用の駐車場として、園外駐車場の確保。
 - 園舎設計に関して、子育て支援室は、保育室と離しての配置も検討する。
 - 近隣の土地確保が条件だが、実現すれば平屋の園舎も検討する。
(近隣の土地というのは、幼稚園がこれまで借りていた園舎に隣接する幼稚園の畑の土地のことです。土地の購入は、駐車場確保などのため、市側は当初から園と隣接する土地が購入できないか探していました。)
 - 保育についての時間帯、14 時までは同じ担任が保育、その後、長時間保育利用の園児については、別の職員を配置して対応する。これは幼稚園教育としては重要です。
 - 仮園舎については、園児の安全確保と桜の木を残すため、園外の小学校校庭に仮園舎を建設する。桜の木を残すことは、地元住民からの要望も多くありました。また、亀崎幼稚園の園歌の最初は「桜のお花に囲まれた～」なので、これも重要でした。
 - 1 月 30 日に P T A みどり会の臨時総会を開催、2 回目。P T A 役員会より教育長からの回答を全保護者に報告。
 - その結果、結論は、幼稚園型こども園の受け入れもやむなしの判断をしました。理由は、
 - 1 つ目、これ以上反対しても、市側の方針は変わらないこと
 - 2 つ目、老朽化園舎の早期建て替えは、地域の多くの人が望んでいること
 - 3 つ目、まだ課題は残るものの、地域活性化や将来を見据えて前向きに捉えていくべきであるということです。
 - 3 月下旬、市議会 3 月定例会で亀崎幼稚園の園舎改築事業が可決。
 - 4 月 25 日、市が保護者と地元住民へ 3 回目の説明会を開催。内容は、
 - 園舎の改築計画のスケジュールと、幼稚園型こども園の概要について。
 - 園舎の平屋建ての設計図案。ようやく要望していた平屋建ての園舎設計が出てきました。しかしこの時はまだ、園舎横の土地購入については、市側と土地所有者と交渉中でした。
 - 交通安全対策として、園外駐車場を 20 台～25 台確保すること。これにより、安全のため園内には通園車両は入らないことになります。
 - 保育は短時間長時間ともに同じクラスで担任が受け持つこと。
 - 園児の受け入れについて、3 歳児・4 歳児・5 歳児の各園児それぞれ短時間保育児 40 名、長時間保育児 20 名の定員ですが、それをオーバーしても、定員 60 名の中で弾力的に対応すること。園児の弟・妹は優先的に園へ入れること。
 - 給食実施で、幼稚園が栽培した野菜や果物が生で食べられなくなるということは、保健所から必ずしも禁止するものではないとの回答を得たこと。園行事が制約されないということになります。
 - 仮園舎は亀崎小学校の校庭に建設を予定していること。
- 以上、この段階で、亀崎幼稚園のこども園化への問題点が、かなりクリアされました。
- その後、土地購入が決定するとの話があり、借りていた畑と、さらにその隣の土地も購入できるという話になったので、1 階建て平屋の園舎が確実なものになりました。
 - 早速 P T A みどり会は 5 月 9 日に、全保護者に園舎建替えのアイデアを募集しました。どんな作りが良いのか、園行事を考慮して、これまでとこれからの子供たちの同線、新しくこんな感じになってほしい…など、まとめると数ページの冊子になった具体案が出てきました。このアイデアを基に、園舎設計業者へ意見をしました。これにより、十分といえるほど、意

見を取り込んでくれた内容の園舎になりました。

- 少し時間が経過した12月19日、市側から4度目の説明会が開催され、新園舎の概要、ハード面についての説明がありました。ここで、現在の園舎の設計図が提示されました。
- 年が明けて1月15日、市から5度目の説明会を、保育など新園舎での運用面、ソフト面についての説明がありました。保育時間のことや、預かり保育、子育て支援室の運用内容などについてです。

この時はまだ、1、2歳児の預かり一時保育をやる方向でしたが、3月18日の市側のPTA役員への説明会で、なくなる方向になりました。

建替えに係るPTAの動きは、ざっとこのような流れです。これ以外にも、何度も教育委員会などへ会長・副会長で足を運びましたし、役員会が様々な仕事をこなしてくれました。

子供たちへの幼稚園教育の存続と、安心安全の確保、亀崎幼稚園という名前を残したこと、園の伝統行事を残せたこと、平屋の園舎で土地購入もできて素敵な園舎が建ったこと、桜の木も半分以上残せたことは、子供たちのために頑張ったPTA活動の賜物だと思います。

さらに現在では、役員会を始め各部会の活動と、お父さんの会「ピヨピヨ」の活躍などで、亀崎幼稚園はこども園になっても、以前にも増して、活発にPTA活動が行われています。これで、亀崎幼稚園のこども園化への問題点が、ほぼ全てクリアされたことと思います。

歴史ある亀崎幼稚園が、建替えに伴い、こども園化するという中で、様々な問題点が山積していました。亀崎幼稚園の幼稚園教育が、建替えによって崩れてしまいそうになったとき、我々PTAがしっかりとその問題点に気づき、市側へ問題提起し、問題を解決することができました。当時頑張ってくれたPTAの保護者のみなさんは、自分の子供が翌年に卒園して関係なくなるのにもかかわらず、地域の子供たちのため、これから亀崎幼稚園に通う子供たちや、若い保護者たちのために、よりよい幼稚園を残そうと一生懸命努力してくれました。

そういった想いを、今いる我々PTAが、次のPTAを担う保護者と、地域の未来を担う子供たちのため、笑顔で元気に通える幼稚園を残していけるように、これからも活発なPTA活動を通じて、次の世代へ引き継いでいきたいと思います。

笑顔いっぱいの子供たちのために…

最後になりますが、私どもPTAのご意見に、半田市行政が真摯にお耳を傾けてくださり、その結果、新たな素晴らしい亀崎幼稚園をおつくり頂いたことに対しまして、この場をお借りして厚く御礼申し上げます。